

子どもの遊びと子育て当事者の癒しが両立するイベント開催とその効果検証に向けた取り組み

Holding events where children's play and the healing of those involved in raising children go hand in hand, and efforts to verify the effectiveness of such events.

○伊東美智子¹⁾、土元哲平²⁾、澁谷雪子¹⁾、松浦由典³⁾、高松邦彦⁴⁾

Michiko Itoh, Tsuchimoto Teppei, Yukiko Sibuya, Matsuura Yoshinori, Kunihiko Takamatsu

神戸常盤大学¹⁾、中京大学²⁾、(株)ピップ³⁾、東京科学大学⁴⁾

Kobe Tokiwa University, Chukyo University, Pip Corporation, Institute of Science Tokyo

Key words: 子育て支援, 疲労, 実証

目的

子育て当事者が抱える育児疲労の実態は、櫻谷(2004)が行った研究において既に指摘されていた。植竹ら(2022)が発表した、未就学児の母親を対象とした疲労の実態調査では、「肩が凝る」「腰が痛い」などが自覚されている。しかし、「マッサージに行く」といった対処法を取った母親は1割にも満たない。「疲労について他者に話したり、相談はしても、実際に他者に育児を任せることにはハードルの高さを感じている」からである。

このような子育て疲労の現状を受け、整体つきキッズパーク「ホグシーランド Presented by ピップエレキバン(以下、HL)」が、昨年より不定期開催されている。そこでHLを企画・運営する(株)ピップと連携し、大学の子育て支援施設にてこれを模したイベントを開催し、効果検証に向けた取り組みを行った。

方法

イベントは、「育児による疲れやコリに対するマッサージ効果を調査する研究」と称し、2024年5月23日(木)10時30分～14時30分において開催された。研究協力者は、普段から本施設を利用している母親達である。研究実施前に、本学研究倫理委員会の審査を通過している。

実験の内容は、①施術前後に協力者から唾液を採取し、ストレスマーカー等の変動を追う、測定調査。②施術前後の気分の変化を測るアンケート評価。③施術中の様子を、動画・写真と参加観察から分析。④施術後の当事者への面接調査。以上の4種に取り組んだ。

会場はいつもと変わらないが、本イベント開催のために貸し切りとし、17名の協力者は事前予約制とした。

協力者の内訳は、25歳以上30歳未満3名、30歳以上35歳未満6名、35歳以上40歳未満6名、40歳以上45歳未満2名であった。

結果

10分間の施術時間でマッサージを希望した部位は、両肩11名、後頸部9名、腰(3名)(複数回答)が多く、症状はコリ10名、だるさ6名(複数回答)が多かった。

子どもが遊んでいる最中の見守りは、施設常勤保育士2名とボランティア看護学生3名が行った。

考察

参加者の平均年齢が34歳であることから、疲労の関連要因として育児そのものによる起因に加え、30歳代に起こる更年期症状に似た不定愁訴との関連も想定しながら、母親と接する必要がある。

また、常時は子どもに向いている母親の意識を、このようなイベントを契機として母親自身の身体に向けることが、既に労わりの一歩となる。身体症状が軽減されると母親が精神的にも落ち着き、子どもとの関わりにおいてもよい変化が生じたとの事例検証が報告されている。

今後はこのような仕掛けが、スポット開催のイベントのみならず、慣れ親しんだ子育てスペース等に自然と組み込まれているような、子育て支援の実現に向けた工夫が求められると考える。

本研究は2024年度科研費(基盤C)の採択を得ている。